

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	8
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	0
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	0
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1
1. 一人ひとりの把握	0
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	3
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	0
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1492000300
法人名	湘南乃えん株式会社
事業所名	湘央グループホームえん
訪問調査日	平成30年3月31日
評価確定日	平成30年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 29 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492000300	事業の開始年月日	平成29年10月1日	
		指定年月日	平成29年10月1日	
法人名	湘南乃えん株式会社			
事業所名	湘央グループホームえん			
所在地	(254-0051) 平塚市豊原町14-17			
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	☒ 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成30年3月18日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Y ビル2F		
訪問調査日	平成30年3月28日	評価機関 評価決定日	平成30年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、湘南乃えん株式会社の運営です。平成29年10月に、今までの、1ヶ所でグループホーム・デイサービス・小規模多機能型事業所・居宅介護支援事業所を運営する独立採算制の方式から、法人として全体を運営する方式へ会社形態を変更しました。湘南地域に4ヶ所のグループホームがあり、合同での研修や勉強会、グループホーム同士の交流など学ぶ機会も増えました。ここ「湘央グループホームえん」はJR東海道線「平塚駅」から「秦野駅北口」行きのバスに乗り「営林署前」で下車して徒歩5分程の住宅地の中に位置しています。

●法人の理念は「真の幸福を探究し、未来の福祉を創造する」です。グループホームとケアホームの共通の理念としては5つの「えん」があります。昨年より事業所の体制も変わり、現在グループホーム独自の理念を作成するために、会議などで職員全員と話し合い検討しています。

●職員の研修については、新入職員に対し基礎研修として介護保険法・認知症・地域・その他を代表と管理者が実施しています。えんの研修では介護職の基本・認知症の理解・個人情報取り扱い・身体拘束・虐待など管理者により実施されています。この度「大起エンゼルヘルプ」と資本提携し、相互に協力し合い「支援」について「自分の生まれ育った場所、住み慣れた地域で、どんな状態になっても生活し続けたい」という利用者の思い叶え、また、利用者もその家族も幸せになっていただけるような、サービス提供が出来るようにとの思いでケアに取り組んでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	湘央グループホームえん
ユニット名	1 階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社式にて代表より理念の内容の話をしている。 まだ理念を掲示し会議等で理念に基づいた話を管理者からするようにしている。	法人の理念は「真の幸福を探求し、未来の福祉を創造する」です。グループホームとケアホームの共通の理念としては5つの「えん」が有ります。昨年より事業所の体制も変わり、現在グループホーム独自の理念を作成するために、会議などで職員全員と話し合い検討しています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の活動（自治会、公民館、福祉村等）へ積極的に参加をしている。	地区の自治会に加入し、自治会館で行われる歌の会や体操、公民館祭り、平塚市の取組みで公民館ごとに設置されている「福祉村」など、積極的に参加し、地域の方々との交流を図っています。事業所としては、地域の方々に来ていただくことよりも、事業所の外に出かけて行くことに力を入れています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、また来年度企画しているバーベキューやお祭り、芋煮会などを行い地域との交流を図り、福祉村の活動ではえんとして1枠担当し介護予防体操や歌を提供している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では家族、自治会長、地域包括からのお話を 踏まえ事業所でできる取組みを行っている	運営推進会議は2ヶ月に1回、平日にケアホームと合同で開催しています。家族、自治会長、地域包括支援センター職員、民生委員などの参加を得て、事業所の状況・活動報告も行い、自治会長や民生委員からは地域の情報をいただき、事業所として地域に貢献出来る取組みを行っています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会や平塚市主催の研修会に参加したり、わからないところは電話や直接市役所に出向き教えていただいている。	平塚市からの情報は郵便、FAX、メールで受け取っています。平塚市は、医療や福祉に積極的に取り組んでおり、医療と介護の連絡会や、平塚地域介護システム会議、ひらつか元気応援ポイント事業など、市の担当者との連絡を密に取り合っています。生活保護受給者の受け入れも行っている関係で、担当者の来訪も、定期的にあります。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規定や、身体拘束委員会を開催し委員会での内容をユニット会議等で話すことで職員に理解をしてもらっている。また施錠に関しては現状夜間以外は施錠しないでいる	身体拘束防止委員会をケアホームと合同で立ち上げており、2ヶ月に1回は委員会が開催され、その中で職員への研修を行っています。また、ユニット間や、ケアホームへ行き来ができる扉は施錠せず、自由に行き来が出来るようにすることで、閉鎖感を感じないようにしています。1人歩きをされる方には、行動を制限するのではなく、見守りや、職員も一緒に外出するなどの対応を行っています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社式の研修、グループ全体の研修で高齢者の虐待について学んだ。また身体拘束委員会で拘束のみならず虐待につながる言葉遣い（言葉の拘束）を検証し周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	自宅での生活が困難になった、ご利用者・ご家族が、えんを第2の我が家として選ばれ、ご利用くださるという大切な契約等に当たっては十分に理解・納得していただけるよう、慎重を期して行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、ご家族とより良い関係であるように努め、遠慮なくご意見や要望を言っていただける環境を作るよう努めている。	家族が面会で来られた時や、家族会の場で、職員から利用者の状況をこと細かく報告し、意見や要望も聞いています。家族会は、行事に合わせてケアホームと合同で開催し、多くの家族の参加があります。また、毎月の状況を写真を添えて、居室担当の職員が家族へ送付しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段からコミュニケーションを図り、意見や提案を言える環境作りに努めている。また、ユニット会議で上がった事を本部役員との運営会議や本部での管理者会議等で話ある機会を作っている。	職員の働き方や、職場の環境を変えることで、職員にゆとりを持ってもらい、意見、提案が言い易い状況作りに努めています。毎月のユニット会議や、運営会議で意見、提案の検討がされています。年に1回は、管理者、主任との全職員の個人面談が行われ、チェック表を基に振り返り、次年度の研修等の計画を立てています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	多くは役員・管理者を通じて就業環境の改善を心掛けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は、年間計画を立て職員一人一人に合った研修を受けれるよう配慮している。外部研修がある際には、職員に声をかけ勉強できる機会を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、毎月の研修・情報交換を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを基にし、ご利用者本人を職員が理解し、お話・見守り・介助をしていく中で、困っている事・不安な事等を早く理解できるよう努力している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お話をゆっくりとできる環境・雰囲気づくりをし、要望や不安な事等を伺っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅ご利用時の担当ケアマネージャーから情報を聞き、何を必要としているのかを見極める。また入居前に家族との話し合いの中でサービスの選択を誤らないように対応を努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者自身の出来る事、他の方の為に出来る事を考えながら無理のないように、生活をしていただいている。支援する中でも時には支えて頂いている事の感謝の意を表すなど、良い関係づくりを続けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意向を知った上、ご利用者・ご家族の双方の絆を尊重し、日常の様子や変化等をご家族へ伝えながら、来えんの機会を多く持つてもらよう努め、参加協力していただけるような関係づくりをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と自由に外出をしたり、馴染みの人が来えんし面会に来て、お話をゆっくりできる環境を作っている。また、難しい方には会話の中から思い出していただけるよう支援している	家族の来訪時に、一緒に外出して食事へ出かけたり、実家で昼食を食べてくる方もいます。また、家族と一緒に実家へ帰り、泊まってくる方もいます。家族の縁が薄い方には、職員が個別に対応をしています。ほとんどの方が、訪問の理美容を利用されていますが、気分を変えて近くの理美容へ行くなどの支援も行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが助け合ったり、何らかの関わりを持てるよう、職員が時には間に入り、支えあえる関係づくりに努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に応じ、相談に乗りフォローに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人との関わり、会話、ご家族等との話し合いにより、ご本人の希望・意向の把握に努めている。	会話の出来る方からは、日々の関わりや、入浴介助時、居室などの1対1になった時に希望、意向の把握に努めています。会話が困難な方は、仕草や表情からの汲み取りと、家族や関係者からの情報収集に努め、把握するようにしています。得られた情報については、ケア記録等に記録し、月次報告書にて居室担当者が介護計画作成担当へ提案しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族や、入居までの担当ケアマネと話し合い、把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者本人と関わり、会話をしていく中や、アセスメントを通し、職員同士でカンファレンスを行い、把握するよう努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族は基より、主治医や職員間で話し合い、ケアプランに反映・実施することで、現状に見合ったプラン作りをしている。	毎月開催しているユニット会議の前に、介護サービス提供状況等を基に、全員のモニタリングを実施しています。管理者がケアホームで経験された、ライフサポートプランの方式で現在は取り組み、利用者の状況に変化があれば、その都度プランを変更しています。プランの変更に伴い、介護計画作成担当より家族へ内容の説明を行い署名捺印をいただいた後に介護計画に沿った支援を開始しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録や業務日誌に目を通し、全職員の情報の共有を図り、プランの見直しや話したい事はカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人を第一に考え、都度状況に合わせ個別に対応しなければならない時は、ご家族にも協力を求め、柔軟な支援・サービスを提供するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の総合公園や湘南平等に出掛け、自然に触れる時間を作り、心豊かに過ごしていただけるよう支援を続けていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者・ご家族の希望にて、訪問医療を利用したり、ご家族の付添にて以前からの、かかりつけ医に受診されたりとしている。	協力医療機関からの訪問診療は、薬剤師も同行で月に2回、歯科医による口腔ケアは毎週行われています。医師の指示で、マッサージを利用されている方もいます。職員の看護師が週に2回、利用者の健康管理や、診療時の付き添い、排便コントロールなどに対応しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師で1・2階を看てもらっており、看護師・介護職員と都度情報交換をし、利用者一人一人の健康に気を付けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ADL表などを提供し、えんでの生活を把握していただくよう努めている。また、入院中の様子を面会すると共に、病院関係者より話を伺っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人とご家族の希望に沿えるような体制づくりに努め、終末期に向けた対応に備えている	契約時に、重要事項説明書に記載している「重度化した場合における指針」や、「終末期のあり方」について説明しています。事業所では、積極的に看取り介護まで行う方針ではありませんが、結果的に看取りになる場合もあるので対応しています。管理者は、最期の時は住み慣れた自宅に戻り、小規模多機能に頼るのが理想と考えています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、誰でも対応できるようにしている。また年間の研修計画の中にも医療の講義を取り入れ常に新しい情報を理解できるように努めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3/19に第1回目の避難訓練を計画。その後、年 2回避難訓練を実施していく。また、運営推進会議にて、ご家族・自治会等との協力体制をとっている。	防災マニュアルに従って防災訓練を年に2回実施しています。地震や火災を想定して訓練を行うと共に、消防署に立ち合いをお願いしています。また、事業所独自の災害時の研修も行っています。地域の防災訓練には、利用者と職員が参加しています。防火管理者が、定期的に備蓄品や防災備品の確認をしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアの一つの基本として、人格を尊重し、プライバシーに十分配慮をしている。	介護保険法の目的の「尊厳を保持し、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営むこと」について研修を行い、年度末には、50項目からなる自己評価も実施しています。声かけ時には「しませんか？」と問いかけ、本人の意思決定を尊重しています。個人情報の書類関係は施錠出来る書庫に保管されています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を汲み取ることができるよう、職員はゆっくりと話を聞き、ご本人に選んで決めて頂けるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望や今までの生活に合わせ、ペースや希望を優先させて支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣類の中で、ご本人に選んでいただくよう職員は支援している。また毎月訪問理容にも来ていただき身だしなみが整えられるようにしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「何が食べたいか？」等メニューと一緒に考えたり、食事作り・配膳・片付け等、一人ひとり出来る事を自分の意志で参加していただいている。	メニュー付き食材を外注していますが、利用者の希望メニューを、買い物をして揃える場合もあります。その方の能力に応じて盛り付け、配膳、下膳、食器の洗い拭きなどの出来る役割を担ってもらっています。出前で寿司を取ったり、週1回来る移動パン屋さんで買い物して、朝食として食べています。季節によって芋煮会や、バーベキューなども行っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常のチェックで、一人一人の日常の摂取量を確認している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前のうがいや、食後の口腔ケアは個々にあった方法で行い、口腔内の清潔を保持している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて、排泄パターンを確認できるようにし、一人一人の排泄リズムを知り、気持ち良く排泄ができる環境を整えるように努めている。	安易にオムツは使用せず、排泄チェック表にて排泄パターンを把握して、一人ひとりに合わせた排泄支援を心がけています。現在オムツを使用される方は1割未満で、皆さん昼夜共にトイレでの排泄しています。普段から陰部など、こまめにチェックし、皮膚のトラブルを起こさないように留意しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、乳製品を摂取するよう心がけ、適度な運動をし便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人のペースに合わせ、ゆっくりと入浴していただけるように努めている。入浴日は決めてはいないが週2回入れるようにチェック表を用いている。	入浴は週2回を基本とし、午前と午後に分けて、ゆっくりと入浴出来るように支援しています。重度化された場合は、2人介助で浴槽に浸かっていただくか、シャワー浴で対応しています。入浴時には、全身の皮膚チェックと、水分補給をしてもらうようにして脱水症状を起こさないように留意しています。また、季節のゆず湯や菖蒲湯も行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室の為、ご本人の希望時に横になったり、適度な室温調整をし安眠できる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の情報を確認し、一人一人に合った服薬方法で服薬支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり出来る事、やりたい事を確認し、洗濯・掃除・食事作り・食器洗い・食器拭き等、役割を持っていたりしている。また、散歩やテラスでの外気浴をして気分転換を図っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員間で連携を取り、少ない時間でも外出できるよう心掛けている。また、ご家族に外出の機会を作っていただくよう協力を依頼している	季節や天気の良い日には、2日に1回は散歩に出かけています。職員の買い物に同行する方や、家族の協力で外出される方もいます。ベランダに出て花や野菜の世話、外気浴をされる方もいます。ドライブでは、平塚総合公園、湘南平、平塚八幡宮、吉田邸などへも出かけています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の欲しいものを、近くのコンビニで購入したり、理解できない方は、職員が手伝いながら買い物をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の協力・理解の基、ご本人からご家族へ電話できるように努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけをしたり、ベランダにて花を栽培したり、絵画や行事の写真等を掲示している。	リビングは、季節や行事を大切に飾り付けを行っています。壁には利用者の作品や、行事の写真の他、1日の過ごし方が大きく掲示され、家族等の来訪時に生活の流れがわかるように配慮しています。1階で行われる歌の会に2階の方が降りて来たり、ケアホームで行われる行事にグループホームの方が参加したり、事業所内の移動が頻繁に行われ、利用者にとっても良い刺激になっています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置を考え、一人になれる空間を作っている。また、気の合う方・合わない方の席も配慮し、時には職員が間に入るよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・ご家族とで話し合い、昔から使っているタンスや家財道具等を持ち込んでいただき、落ち着くことのできる空間を作っている。	居室には、クローゼット・エアコン・照明が完備されていますが、入居時の生活環境の変化から入居者が不安や混乱を招くことのないように、使い慣れた家具や調度品を持ち込んでいただくように伝えています。昔から使われていたタンス、ドレッサー、テレビの他、家族写真などが持ち込まれ、利用者の動線を考慮しながら配置されています。居室担当の職員が、室内の整理や衣替えなどを行っています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの為、手すりを使って移動している方に関しては、見守りをしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

湘央グループホーム えん

作成日

平成30年3月31日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
2	1	地域との交流	地域との交流・連携を深め、地域に溶け込んだ運営を目指す	①行事などの開催案内 ②地域行事への参加 ③地域での買い物 ④運営推進会議の開催	6 か月
1	2	ご入居者様の日常生活動作の低下	身体機能の維持・向上	①生活リハビリの確立 ②専門士との連携	3 か月
3	3	医療との連携	健康管理の充実	①往診医との密度の高い連携 ②口腔ケアの専門性を高める	6 か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	湘央グループホームえん
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社式にて代表より理念の内容の話をしている。 まだ理念を掲示し会議等で理念に基づいた話を管理者からするようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の活動（自治会、公民館、福祉村等）へ積極的に参加をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、また来年度企画しているバーベキューやお祭り、芋煮会などを行い地域との交流を図り、福祉村の活動ではえんとして1 枠担当し介護予防体操や歌を提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では家族、自治会長、地域包括からのお話を 踏まえ事業所でできる取組みを行っている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会や平塚市主催の研修会に参加したり、わからないところは電話や直接市役所に出向き教えていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規定や、身体拘束委員会を開催し委員会での内容をユニット会議等で話すことで職員に理解をしてもらっている。また施錠に関しては現状夜間以外は施錠しないでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社式の研修、グループ全体の研修で高齢者の虐待について学んだ。また身体拘束委員会で拘束のみならず虐待につながる言葉遣い（言葉の拘束）を検証し周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	自宅での生活が困難になった、ご利用者・ご家族が、えんを第2の我が家として選ばれ、ご利用くださるという大切な契約等に当たっては十分に理解・納得していただけるよう、慎重を期して行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、ご家族とより良い関係であるように努め、遠慮なくご意見や要望を言っていただける環境を作るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段からコミュニケーションを図り、意見や提案を言える環境作りに努めている。また、ユニット会議で上がった事を本部役員との運営会議や本部での管理者会議等で話ある機会を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	多くは役員・管理者を通じて就業環境の改善を心掛けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は、年間計画を立て職員一人一人に合った研修を受けれるよう配慮している。外部研修がある際には、職員に声をかけ勉強できる機会を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、毎月の研修・情報交換を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを基にし、ご利用者本人を職員が理解し、お話・見守り・介助をしていく中で、困っている事・不安な事等を早く理解できるよう努力している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お話をゆっくりとできる環境・雰囲気づくりをし、要望や不安な事等を伺っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅ご利用時の担当ケアマネージャーから情報を聞き、何を必要としているのかを見極める。また入居前に家族との話し合いの中でサービスの選択を誤らないように対応を努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者自身の出来る事、他の方の為に出来る事を考えながら無理のないように、生活をしていただいている。支援する中でも時には支えて頂いている事の感謝の意を表すなど、良い関係づくりを続けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意向を知った上、ご利用者・ご家族の双方の絆を尊重し、日常の様子や変化等をご家族へ伝えながら、来えんの機会を多く持つてもらよう努め、参加協力していただけるような関係づくりをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と自由に外出をしたり、馴染みの人が来えんし面会に来て、お話をゆっくりできる環境を作っている。また、難しい方には会話の中から思い出していただけるよう支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが助け合ったり、何らかの関わりを持てるよう、職員が時には間に入り、支えあえる関係づくりに努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に応じ、相談に乗りフォローに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人との関わり、会話、ご家族等との話し合いにより、ご本人の希望・意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族や、入居までの担当ケアマネと話し合い、把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者本人と関わり、会話をしていく中や、アセスメントを通し、職員同士でカンファレンスを行い、把握するよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族は基より、主治医や職員間で話し合い、ケアプランに反映・実施することで、現状に見合ったプラン作りをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録や業務日誌に目を通し、全職員の情報の共有を図り、プランの見直しや話し合いたい事はカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人を第一に考え、都度状況に合わせ個別に対応しなければならない時は、ご家族にも協力を求め、柔軟な支援・サービスを提供するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の総合公園や湘南平等に出掛け、自然に触れる時間を作り、心豊かに過ごしていただけるよう支援を続けていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者・ご家族の希望にて、訪問医療を利用したり、ご家族の付添にて以前からの、かかりつけ医に受診されたりとしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師で1・2階を看てもらっており、看護師・介護職員と都度情報交換をし、利用者一人一人の健康に気を付けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ADL表などを提供し、えんでの生活を把握していただくよう努めている。また、入院中の様子を面会すると共に、病院関係者より話を伺っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人とご家族の希望に沿えるような体制づくりに努め、終末期に向けた対応に備えている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、誰でも対応できるようにしている。また年間の研修計画の中にも医療の講義を取り入れ常に新しい情報を理解できるように努めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3/19に第1回目の避難訓練を計画。その後、年 2回避難訓練を実施していく。また、運営推進会 議にて、ご家族・自治会等との協力体制をとっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアの一つの基本として、人格を尊重し、プライバシーに十分配慮をしている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を汲み取ることができるよう、職員はゆっくりと話を聞き、ご本人に選んで決めて頂けるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望や今までの生活に合わせ、ペースや希望を優先させて支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣類の中で、ご本人に選んでいただくよう職員は支援している。また毎月訪問理容にも来ていただき身だしなみが整えられるようにしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「何が食べたいか？」等メニューを一緒に考えたり、食事作り・配膳・片付け等、一人ひとり出来る事を自分の意志で参加していただいている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常のチェックで、一人一人の日常の摂取量を確認している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前のうがいや、食後の口腔ケアは個々にあった方法で行い、口腔内の清潔を保持している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて、排泄パターンを確認できるようにし、一人一人の排泄リズムを知り、気持ち良く排泄ができる環境を整えるように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、乳製品を摂取するよう心がけ、適度な運動をし便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人のペースに合わせ、ゆっくりと入浴していただけるように努めている。入浴日は決めてはいないが週2回入れるようにチェック表を用いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室の為、ご本人の希望時に横になったり、適度な室温調整をし安眠できる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の情報を確認し、一人一人に合った服薬方法で服薬支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり出来る事、やりたい事を確認し、洗濯・掃除・食事作り・食器洗い・食器拭き等、役割を持っていたりしている。また、散歩やテラスでの外気浴をして気分転換を図っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員間で連携を取り、少ない時間でも外出できるよう心掛けている。また、ご家族に外出の機会を作っていただくよう協力を依頼している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の欲しいものを、近くのコンビニで購入したり、理解できない方は、職員が手伝いながら買い物をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の協力・理解の基、ご本人からご家族へ電話できるように努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけをしたり、ベランダにて花を栽培したり、絵画や行事の写真等を掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置を考え、一人になれる空間を作っている。また、気の合う方・合わない方の席も配慮し、時には職員が間に入るよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・ご家族とで話し合い、昔から使っているタンスや家財道具等を持ち込んでいただき、落ち着くことのできる空間を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの為、手すりを使って移動している方に関しては、見守りをしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

湘央グループホーム えん

作成日

平成30年3月31日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
2	1	地域との交流	地域との交流・連携を深め、地域に溶け込んだ運営を目指す	①行事などの開催案内 ②地域行事への参加 ③地域での買い物 ④運営推進会議の開催	6 か月
1	2	ご入居者様の日常生活動作の低下	身体機能の維持・向上	①生活リハビリの確立 ②専門士との連携	3 か月
3	3	医療との連携	健康管理の充実	①往診医との密度の高い連携 ②口腔ケアの専門性を高める	6 か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。